



## エコマークアワード 2019

受賞団体・評価コメント

### EXCELLENCE PRIZE

優秀賞

#### 国立大学法人 三重大学

三重大学の学生・教職員によるMIEUポイント活動

三重大学は、「世界に誇れる環境先進大学」を目指し、環境方針のもと様々な環境配慮の取り組みをしている。中でも、学生や教職員が自発的に行った省エネ活動や3R活動に対してポイントを付与し、大学生活で必要な商品（エコマーク認定商品等の環境配慮型商品）と交換できる「MIEUポイント」の運用は、スマートフォンを活用し手軽に参加できる仕組みを構築し、個々の学生や職員によるエコ活動という努力を「見える化」した好事例であり、学生の環境教育の視点でも優れている。ポイントは企業からの寄付を原資とし、大学のイニシアティブのもと学生と企業とともに運用する取り組みは、今後地域の環境活動の活性化にもつながることが期待される。

### ECO OF THE YEAR

エコ・オブ・ザ・イヤー

#### 戸田家

[認定番号: 19 503 003]

株式会社戸田家

戸田家は、旅館で初めてエコマーク認定を取得した施設である。大型旅館でありながら、きめ細かく利用者の要望に応じて提供される食事「御客前会席」による食品ロスの削減、生ごみを堆肥化して育てた野菜や無農薬の野菜・果物を使用したメニュー



[認定番号: 19 503 003]

など、おもてなしと環境配慮が両立されている。さらに、業界では初めて、調理時に廃棄される残渣を養殖用に飼料化したり、施設内で発生した古紙のリサイクルルートを製紙会社と連携して立ち上げるなど、資源循環に大きく寄与する活動に長年にわたって取り組んでおり、施設運営にて一貫した環境への配慮がみられる。また近隣の海洋漂着ゴミの清掃および定点調査に定期的に取り組むとともに、施設への見学を広く受け入れるなど、自社内に留まらず社会に貢献する真摯な活動が高く評価された。観光産業における環境配慮のモデル旅館として、今後のさらなる活動が期待される。



## ECO MARK AWARD 2019

### エコマークアワード 2019

エコマークアワードは、公益財団法人日本環境協会が2010年度に創設した表彰制度です。

環境配慮商品の普及に関する優れた事例を広く公表するとともに、エコマーク商品のより一層の普及拡大を通じて、持続可能な社会の実現に寄与することを目的としています。

2020年1月16日

JAPAN ENVIRONMENT ASSOCIATION  
公益財団法人日本環境協会



エコマークアワード賞状



エコマークアワード  
受賞ロゴ

「エコマークアワード」トロフィデザインについて  
蛍光管の再生ガラスで作られたリングによって「人々の叡智による循環」というテーマを表現。受賞された企業や団体、そして全ての関係者が、より積極的な活動を続けるためのシンボルになることを願ってデザインされています。

賞状・トロフィデザイン: GKグラフィックス 木村雅彦氏



エコマークアワードトロフィ



エコマークアワード 2019 ウェブサイト:  
<https://www.ecomark.jp/award/2019/>

公益財団法人日本環境協会 エコマーク事務局  
〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-10-5 TMMビル5F  
Tel: 03-5829-6286 Email: info@ecomark.jp



## エコマークアワード 2019

受賞団体・評価コメント

### 「エコマークアワード2019」選考委員長 講評

10回目の節目となる今回は、最優秀賞1団体、優秀賞4団体、そしてエコ・オブ・ザ・イヤーに1団体が選ばれました。

今回は、長年の研究開発により他に類を見ないような商品でエコマーク認定を取得したメーカー、地域に根差した地道な活動をベースにエコマーク認定取得後もさらに高い環境配慮を目指す小売店舗・宿泊施設、そしてエコマーク商品の調達と普及に力を注ぐ自治体・大学が受賞されました。技術革新、地域との共生、若年層への啓発活動、そしてパートナーシップによるグリーン調達の推進という、それぞれの特色があらわれた、まさにSDGsの17の目標にも適う優れた取り組みといえます。持続可能な社会の形成のためにはいかにより商品を作るかはもちろん、その良さをどのように伝え広げるか、という視点も重要です。今回の受賞団体それぞれの取り組みは、品質だけでなく環境性能にも優れた商品を作り、売り、広げる、という市場浸透の仕組みづくりの模範となるような事例です。今回の受賞をきっかけとして、ますます多くの事業者と市民がエコマークを介してつながっていき、より大きな成果に結びついていくことを期待しています。



筑波大学大学院 ビジネス科学研究科 教授 西尾チヅル氏

### 「エコマークアワード2019」選考委員のご紹介

<b>伊 坪 徳 宏</b> 東京都市大学 環境学部 教授	<b>山 口 庸 子</b> 共立女子短期大学 生活科学科 教授
<b>西 尾 チヅル</b> 筑波大学大学院 ビジネス科学研究科 教授	<b>山 崎 和 雄</b> 日刊工業新聞 論説委員
<b>西 村 治 彦</b> 環境省 大臣官房 環境経済課長	<b>藤 崎 隆 志</b> 日本環境協会 エコマーク事業部長
<b>藤 井 実</b> 国立環境研究所 社会環境システム研究センター 環境社会イノベーション研究室 室長	

### 表彰部門

#### 最優秀賞

概 要	優秀賞を受賞した企業、団体の中から最も優れた取り組みを表彰
選考方法	各部門の優秀賞を決定後、「エコマークアワード選考委員会」が選考

#### 優秀賞

概 要	エコマークを通じて「消費者の環境を意識した商品選択、企業の環境改善努力による、持続可能な社会の形成」に大きく寄与する取り組みをした企業・団体等を表彰									
対 象	エコマーク商品の普及に貢献している企業、団体など（エコマーク認定商品保有企業に限りません。）									
募集期間	2019年6月1日（土）～7月31日（水）									
選考方法	応募または推薦のあった団体の中から、「エコマークアワード選考委員会」が選考 1) 一次審査 エントリーシート（団体PR文（800字以内））による書類審査 2) 本 審 査 一次審査通過団体に対して最終審査を行い、受賞者を決定									
評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>● エコマークを通じた以下の「活動テーマ（6項目）」のいずれか（1項目以上）における取り組みが、特に秀でた企業・団体を表彰。             <table border="0"> <tr> <td>「活動テーマ」</td> <td>1. 認知度向上、市場への普及・浸透</td> <td>4. 技術開発における創意工夫</td> </tr> <tr> <td></td> <td>2. 環境コミュニケーション</td> <td>5. 新たな社会システムの提示、構築</td> </tr> <tr> <td></td> <td>3. 環境負荷低減効果</td> <td>6. 地域に根差した環境貢献活動</td> </tr> </table> </li> <li>● 評価の指標 「市場、社会へのインパクト」、「活動の意欲・継続性」、「多様な主体との連携」、「取り組みの先進性」に照らして評価します。</li> </ul>	「活動テーマ」	1. 認知度向上、市場への普及・浸透	4. 技術開発における創意工夫		2. 環境コミュニケーション	5. 新たな社会システムの提示、構築		3. 環境負荷低減効果	6. 地域に根差した環境貢献活動
「活動テーマ」	1. 認知度向上、市場への普及・浸透	4. 技術開発における創意工夫								
	2. 環境コミュニケーション	5. 新たな社会システムの提示、構築								
	3. 環境負荷低減効果	6. 地域に根差した環境貢献活動								

#### エコ・オブ・ザ・イヤー

概 要	特に環境性能や先進性、エコフレンドリーデザインなどに優れた商品を表彰
対 象	2018年度、2019年度に認定されたエコマーク認定商品 ※公募なし
選考方法	対象となるエコマーク商品から評価ポイントおよび認定基準への適合状況等を勘案し、「エコマークアワード選考委員会」で評価を行い選考
評価ポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>● エコマークの4つの重点領域「省資源と資源循環」「地球温暖化の防止」「有害物質の制限とコントロール」「生物多様性の保全」のいずれか1つ以上に大きく寄与するもの</li> <li>● その製品を使用することにより消費者の環境意識の向上、又は環境教育へのつながりが期待されるもの</li> <li>● 消費者の購買行動を環境に配慮したものへと誘導することが期待されるもの</li> <li>● 先導的な技術または取り組みであり、他の企業・団体等への波及効果が期待されるもの</li> </ul>

#### GRAND PRIZE

最優秀賞

#### 越後製菓株式会社

環境に配慮したフィルム包装米飯  
「日本のごはん」

越後製菓株式会社は、餅類、米菓、米飯等の製造販売会社である。主力商品の一つである包装米飯「日本のごはん」において、家庭でのプラスチックごみの削減を目標とし、従来のトレー型容器とは全く異なるお茶碗型の薄いフィルム容器を採用。個包装重量を従来の約15gから約2gまで減らし、容器の大幅な軽量・薄肉化を実現した。これまでの常識にとらわれないこの革新的な容器は、長年にわたる研究開発と技術力により、単一素材化、接着剤不使用といった数々の技術的なブレークスルーによって実現されている。エコマークによるコミュニケーションを通じて、少量を手軽に食べられるという消費者のメリットはそのままに、ごみが少ない容器包装を選ぶという新たなライフスタイルを提案する優れたエコプロダクトである。

#### EXCELLENCE PRIZE

優秀賞

#### 株式会社ケースホールディングス

新製品が安いケースデンキ エコ活動のご紹介

株式会社ケースホールディングスは「ケースデンキ」を運営し、家電量販店として初めて全国約500の店舗でエコマーク認定を取得した。店舗での環境配慮として消費者との接点を大切にし、家電修理による長期使用の推進や回収・リサイクルに関する情報を店舗内ポスターで周知するなど、小売店舗ならではの広報活動を展開している。店舗運営においても、エネルギー使用量の見える化によるCO<sub>2</sub>排出の削減や従業員の環境に対する意識向上が図られている。今後も消費者とのかかわりを通し、環境配慮に積極的に取り組む小売店舗として業界をリードすることが期待される。

#### コープデリ生活協同組合連合会

100年後の地球のために

関東1都7県の7生協で構成されるコープデリ生活協同組合連合会は、500万人を超える組合員とともにSDGsの達成を目指している。エコマークをはじめ環境ラベル認証商品を多くそろえ、エシカル消費の普及啓発を軸とした事業展開を行っている。とりわけ、エコマーク認定商品の取り扱い数は近年大きく増加しており、店舗でのPOPによるエコマーク商品の紹介や、宅配・ネットでの幅広い周知など、エコマークの普及啓発において大きく貢献している。宅配センターや店舗での環境学習は年間多数開催されるなど、地域組合員との環境コミュニケーション活動が定着している点も高く評価された。

#### 函館市

グリーン購入の推進に向けた函館市の取り組みについて

函館市は、環境配慮物品の調達実績向上のため、2017年にグリーン購入ガイドラインを大幅に見直し、調達目標の達成に取り組んでいる。ガイドラインでは、判断基準の目安としてエコマークを最優先に掲載し、調達時のわかりやすさを追求している。目標値を達成していない部局に対して原因の分析を送付するなど、実施後の評価と改善により全庁でのグリーン購入実施の徹底を図っている。さらに庁内だけでなく市民への周知に取り組み、市内を走る電気自動車へのラッピングや、コミュニティラジオへの出演、オリジナルのエコすごろくの作成など、アイデアと行動力が光っている。函館市のグリーン購入促進の実施は、他の自治体にも大いに参考になる優れた事例である。今後の取り組みの継続に期待したい。